

1. 調査概要

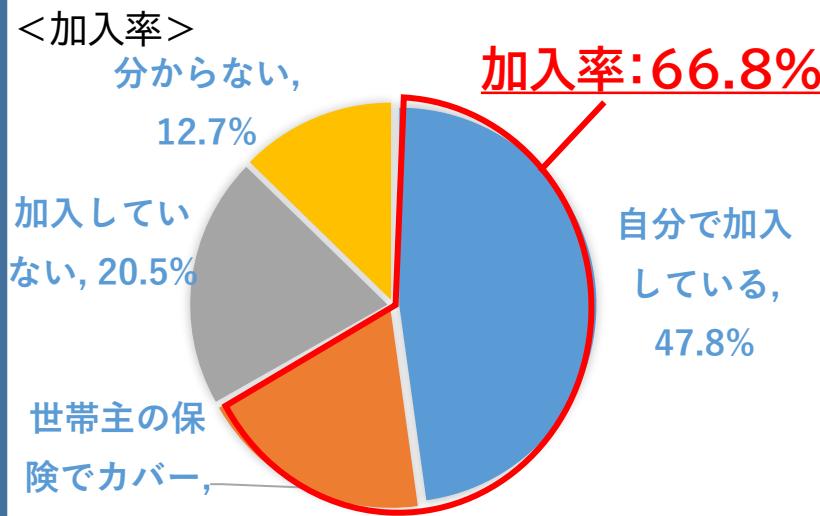
■調査対象:都内18歳~79歳の自転車利用者1,000名
 ■調査手法:インターネット調査

■調査実施期間:2月21日~2月26日
 ■設問数:47問

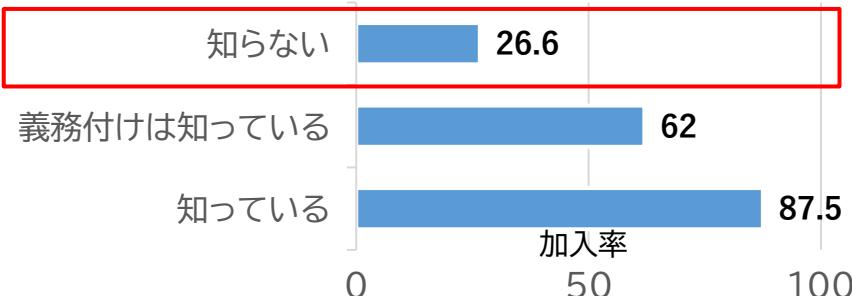
2. 調査結果

(1) 保険加入率

()内は報告書のページ



<条例・義務化の認知率と加入率の関係>



- 加入率は昨年度の63%より3.8%増で66.8%
 - 加入率について、年代別に大きな差異はない
 (18~79歳)
- 条例・義務化の認知による差異は大きく、“条例及び義務化を知らない”と回答した人の加入率は26.6%
 (19歳)
- 条例及び義務化の認知率は73.7%で令和4年度調査時の80.3%をピークに減少傾向(特に10代60%、20代65.6%が低い状況)
 - そのうち、どこで知ったかについて、上位から
 “行政(41.1%)”、インターネット(25.4%)、自転車店(22.8%)
 (15~17歳)
- 保険に加入しない理由は“保険料が高い”(29.8%)、“義務であることを知らなかつたから”(29.3%)が上位
 (24~25歳)

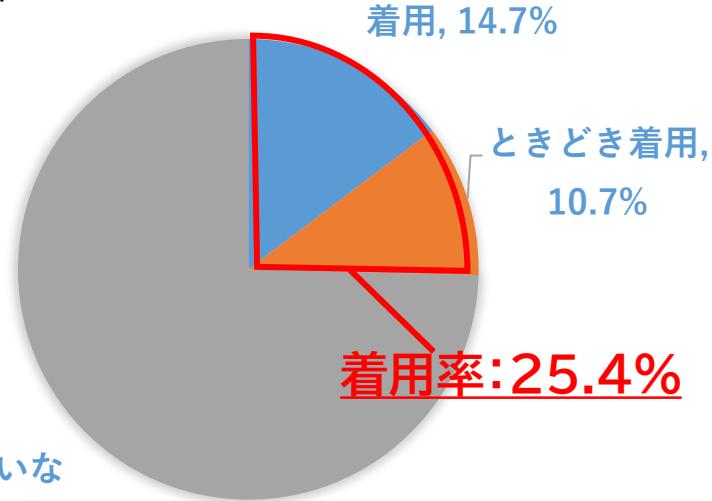
令和6年度 自転車安全利用に関する調査結果 概要

2. 調査結果

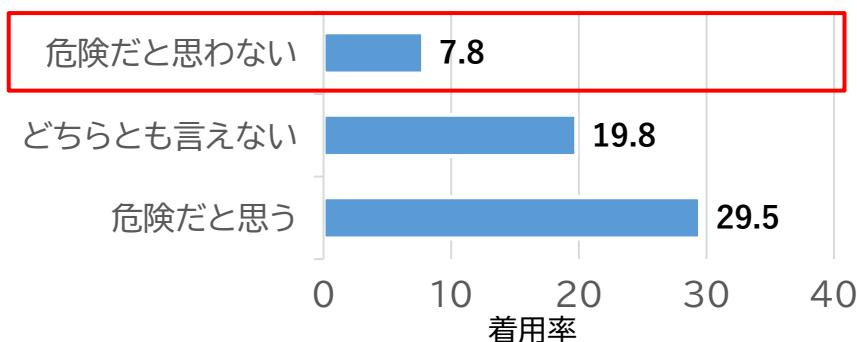
(2)ヘルメット着用率

()内は報告書のページ

<着用率>



<自転車運転の危険性認識と着用率の関係>



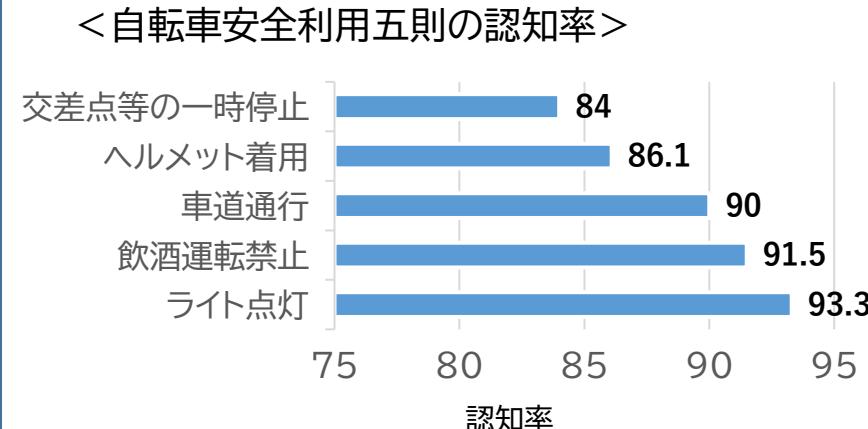
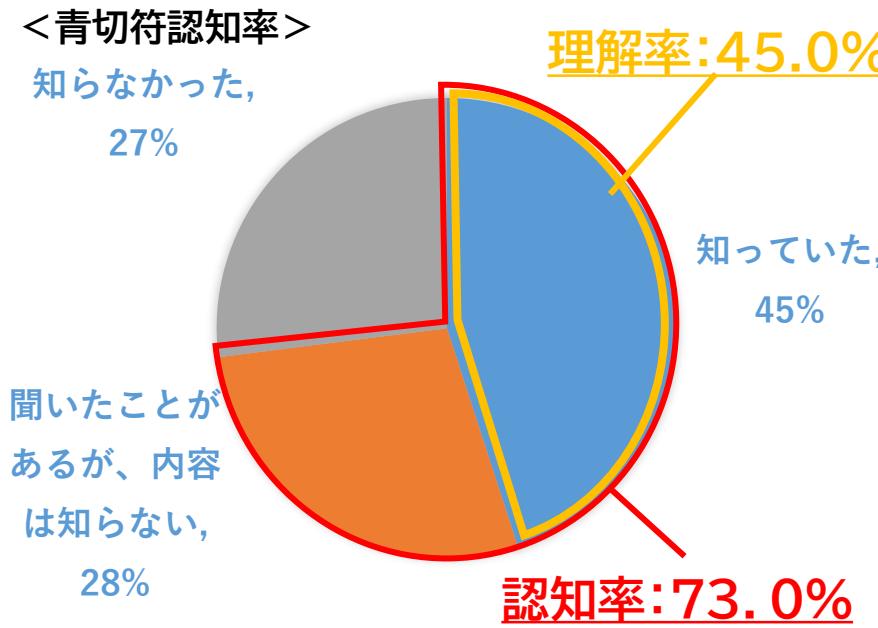
- 着用率は昨年度の27%より1.6%減で25.4%
－年代別に見ると、40代(18.1%)、50代(16.4%)と低い傾向
(26^{ページ})
- 自転車の利用目的別にみると、趣味・運動(39.4%)子供の送迎(38.7%)の着用率が高く、近場の買い物等(22.9%)が最も低い
(27^{ページ})
- 自転車運転の危険性認識と着用率の関係性をみると、“自転車運転の危険性”を感じないと答えた人の着用率は7.8%
(27^{ページ})
- 条例等による義務化の認知率は79.4%であり、多くの人が知っているが、被っていない状況
(28^{ページ})
- 着用しない理由は“着用が面倒だから”(26.3%)、“義務ではないから”(17.0%)が上位
(32^{ページ})
- どういった内容の広報が効果的だと思うかの問い合わせには上位から条例等で義務付け(49.1%)に次ぎ、事故の事例(28.4%)、ヘルメットの性能(26.0%)が続き、ヘルメットの安全性に関する回答が多かつた
(36^{ページ})

令和6年度 自転車安全利用に関する調査結果 概要

2. 調査結果

(3)自転車ルール等

()内は報告書のページ

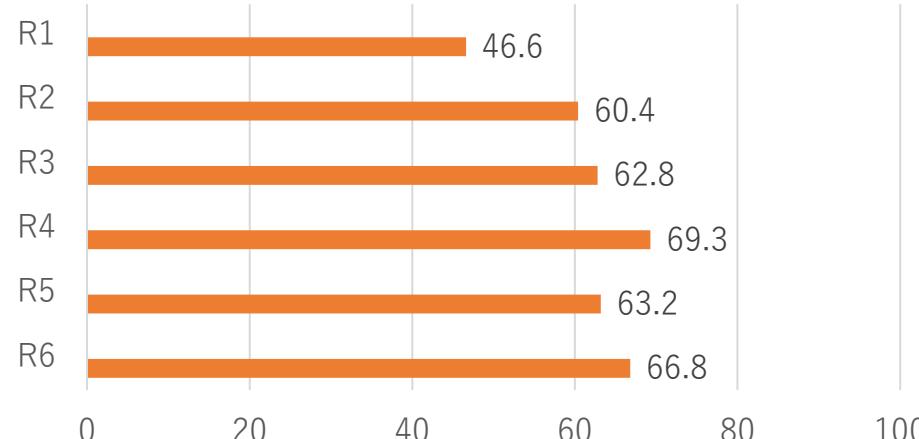


- 青切符の認知率は73%、理解率は45.0%
-年代別に見ると、60代(83.5%)、70代(87.7%)と高い傾向、10代(50%)が最も低い
(39ページ)
- 自転車安全利用五則について、すべてのルールの認知率は80%を超える
-最上位:ライト点灯(93.3%) 最下位:交差点一時停止(84%)
(50ページ)
- 一方、そのうち、車道通行や交差点の一時停止については、守っていない場合があると回答した人が23~24%前後
(50ページ)
- 交通安全教育の場所として最も重要だと思うものについては、学校(43.9%)、地域(25.6%)、家庭(14.7%)の順に高かった (74ページ)
- 交通安全教室の手法毎の効果について、有益か否か聞いたところ、リーフレット・冊子(86.4%)、近隣での交通安全教室(84.7%)、各種団体が実施する自転車安全講習会(83.6%)の順に有益だったと回答した人が多かった。
(73ページ)

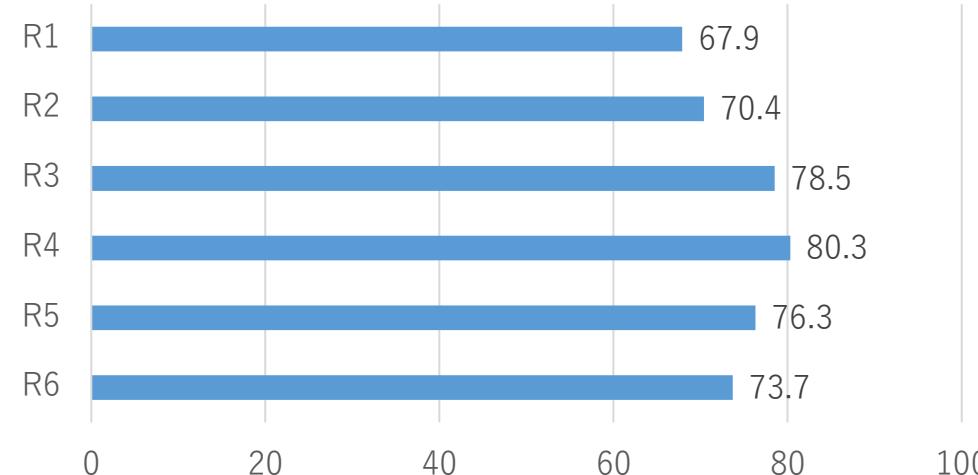
(参考)自転車安全利用調査結果 経緯

1.保険加入等

<加入率>

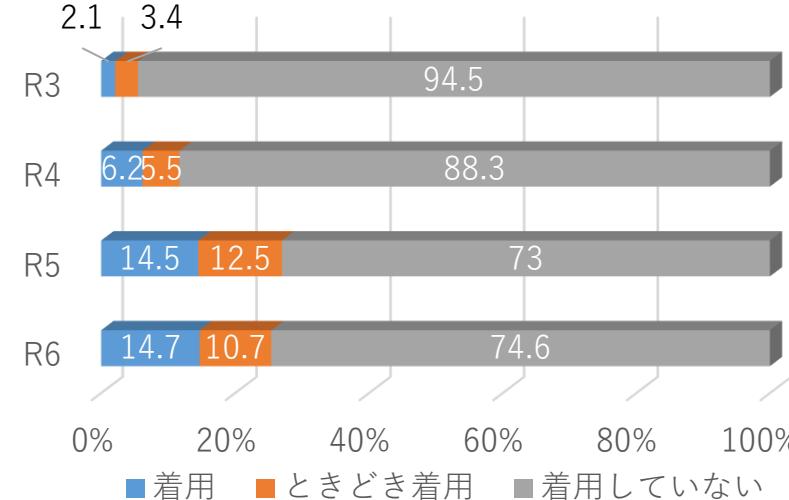


<義務化認知率>

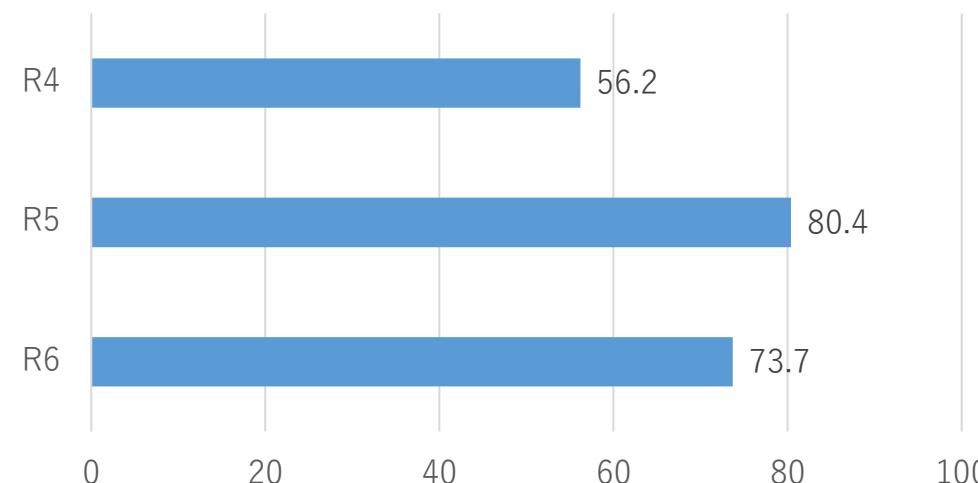


2.ヘルメット着用

<着用率>



<義務化認知率>



令和6年度 自転車等の安全利用(保険加入等)に関する調査報告書(全文)は、
以下QRコード(クリック又は読み取り)から御確認いただけます。

